

● 教室(診療科)の特色 ●

形成外科は近年になり急速に発達した学問で、現在も発展し続けています。

新しいアイデアと発想でまったく新しい術式が生み出され、それがスタンダードな術式に成り代わる可能性を秘めています。また患者さんによって症例が1例1例異なるので、その人にあった一番よい方法を熟考しなければなりません。現在は患者さんが医師の技量と人柄を見て、受診をする時代です。

その期待に応えるため、医師は常に自分の技術を磨き、患者さんに合った最良の方法を考え、さらに優れた新しい治療方法を考える想像力を養うことが必要とされています。

このような自由な発想は、いろいろなジャンルの本を読んだり、いろいろな職種の人と話をすることによって培われ、アイデアも浮かびます。また、国際学会で研究成果を発表することも多いので、広い世界を意識してほしいと思います。



上田 晃一(うへだ こういち)教授(科長)

■ 専門分野

頭蓋顎顔面外科、マイクロサージャリー、唇顎口蓋裂、ケロイド・肥厚性癬痕

■ 職歴

昭和34年 12月生まれ

昭和59年 大阪医科大学卒業後、大阪医科大学形成外科学教室(田嶋定夫教授)に入局、臨床研修開始

昭和61年 高知県近森病院で外科と救急医療研修(2年間)

平成 元年 埼玉医科大学総合医療センター形成外科、マイクロサージャリーの研修(2年半)

平成11年 英国Oxford大学Department of Human anatomy & Geneticsに 留学(1年間)

平成12年 大阪医科大学助教授(形成外科学教室)

平成16年 大阪医科大学教授

■ 主な学会/専門医資格

日本形成外科学会(形成外科専門医、皮膚腫瘍外科指導専門医)、日本頭蓋顎顔面外科学会(専門医)

日本手外科学会専門医、日本マイクロサージャリー学会、日本美容外科学会、日本抗加齢医学会、

日本創傷外科学会、国際顎顔面外科学会(Associate Member)、

国際マイクロサージャリー学会(Active Member)

■ 研究課題

抗接着分子抗体を用いた皮弁の再灌流障害の防止および同種皮弁移植の拒絶反応の抑制

ケロイド・肥厚性癬痕のエネルギー代謝、遊離筋弁移植による顔面表情筋の機能再建

唇裂外鼻変形の治療

● 教室(診療科)の概要・特徴 ●

形成外科は、皮膚をはじめとする軟部組織や骨組織を含めた顔面全域など広い範囲を対象とする診療科です。

大阪医大では、顔面外傷、顔面骨骨折、頭蓋顎顔面の先天異常や変形に対する三次元実体模型、三次元画像を用いたシミュレーション手術、唇顎口蓋裂に対する総合的治療、外傷や悪性腫瘍切除による組織欠損やマイクロサージャリーによる治療、Qスイッチアレクサンドライトレーザー、Vビームレーザーを用いた各種あざの治療を積極的に行っています。

● 教室(診療科)指導医・上級医 ●

氏名(職掌)	専門医	参加学会
岡田 雅(准教授)	形成外科専門医	日本形成外科学会
塗 隆志(講師)	形成外科専門医、創傷外科学会専門医、皮膚腫瘍外科指導専門医	日本形成外科学会、日本マイクロサージャリー学会ほか
光野乃祐(助教)	形成外科専門医	日本形成外科学会
大槻祐喜(助教)	形成外科専門医	日本形成外科学会
岩永紘征(助教)	形成外科専門医	日本形成外科学会、日本マイクロサージャリー学会ほか
廣田友香(助教)	形成外科専門医	日本形成外科学会
原 舞(非常勤)	形成外科専門医	日本形成外科学会、美容外科学会ほか

■連絡先：大阪医科大学形成外科学教室 TEL:072-683-1221

■ホームページ：<http://www.osaka-med.ac.jp/deps/pla/> <http://www.anti-agings.org/>

初期研修プログラムの特徴

形成外科は、年間入院手術 470例、外科手術 670例と豊富な症例数を有しています。先天異常、顔面外傷、再建を含めて形成外科学全般に関して幅広い専門研修を受けることが可能です。

形成外科の初期研修は、形成外科学全般の知識と臨床能力および技術を修得することを目的とし、形成外科領域のいかなる分野の診療、手術技術においても習熟した形成外科専門医の育成を目的としています。

研修内容と到達目標

<1年目>

- 形成外科入院患者を、主治医の指導のもと診療する。
- 形成外科疾患全般の病態を把握し、的確な診断、治療計画、症例のプレゼンテーション、手術計画を行う。
- 各疾患に対する画像診断を含めた術前準備、術後管理方法を修得する。
- 形成外科疾患における処置を修得する。

<2年目>

- 形成外科疾患の各分野についての病態、診断、治療についての知識を深め、手術手技を身につける。
- 各症例の問題点を的確に指摘し、適切な手術計画、術後管理方法について提示できる。
- 全層、分層の皮膚採取、自家骨採取、筋膜採取を行う。
- 1年目の指導を行い、各疾患への理解を深めるとともに、自身の1年目で修得した診断、治療の技術の習熟につとめる。
- 経験した症例について学会発表を行い、論文作成を行う。
- 学会、研究会で発表を行い、論文作成を行う。

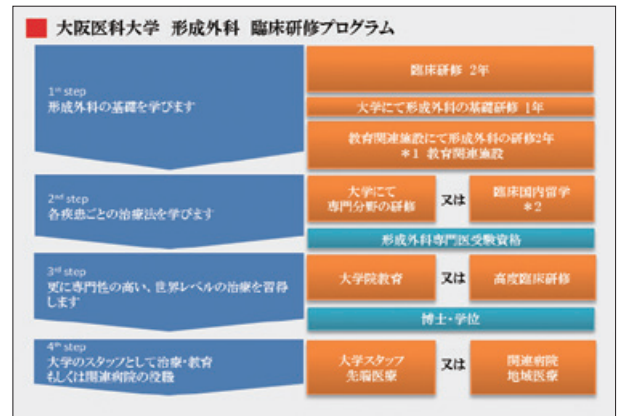
研修病院群

大阪医科大学附属病院、近森病院、星ヶ丘厚生年金病院、城山病院、東住吉森本病院、馬場記念病院、市立奈良病院、済生会吹田病院、市立ひらかた病院、高槻病院



評価方法

「形成外科専門医受験資格」の基準症例を用いて、形成外科疾患の受け持ちが万遍なく行われているかどうかを基準に行う。また、術前術後カンファレンスでの発表内容からも合わせて検討する。なお、形成外科専門医の取得には、形成外科の臨床に基づく論文発表が義務づけられているので、できるだけ多くの症例を経験して、学会発表、論文発表に努める必要がある。



週間スケジュール

月曜日	病棟回診、外来診察 他科との合同手術、病棟にて患者診察
火曜日	手術、病棟にて患者診察 術前術後カンファレンス
水曜日	手術または外来診察 病棟にて患者診察
木曜日	手術、病棟にて患者診察 術前術後カンファレンス
金曜日	外来診察 病棟にて患者診察
土曜日	手術または外来診察 病棟にて患者診察

後期研修プログラムの特徴

日常の臨床から得られる、様々な問題点から発展した臨床研究を積極的に企画し、実践する能力を身につけることができる研修システムを構築しています。具体的には、①学会報告や症例報告、②臨床研究から論文作成、③当科と連携を深めている形成外科疾患研究における基礎リサーチへの参加、などがレジデント研修期間に可能です。

研修プログラム

< 3年目～4年目における研修方法 >

形成外科学会の認定施設は、大阪医科大学形成外科、近森病院形成外科、市立奈良病院形成外科、彩樹守口敬任会病院形成外科、済生会吹田病院形成外科の5つである。教育関連施設は、城山病院形成外科、東住吉森本病院形成外科、市立ひらかた病院形成外科、高槻病院形成外科、馬場記念病院形成外科の5つである。以上の施設には形成外科認定医が在籍しているため、形成外科認定医の指導の下で修練を行なうことができる。形成外科専門医の修練として重要な期間を送れるように指導体制も整えている。

ただし、関連病院での修練開始時期、修練期間については、個々の状況に応じて調節する。

研修内容と到達目標

- 3年目までに修得した知識と技術を元に、手術を計画、施行を行う。技術、知識の修得度に応じて症例に対する手術を行う。
- 主治医とともにまたは主治医として、手術計画、術後管理を立案し、実施する。
- 入院中のみならず退院後の外来診療を合わせて行う。
- 大学のみならず関連施設での研修を行う。



国際学会 in Oxford

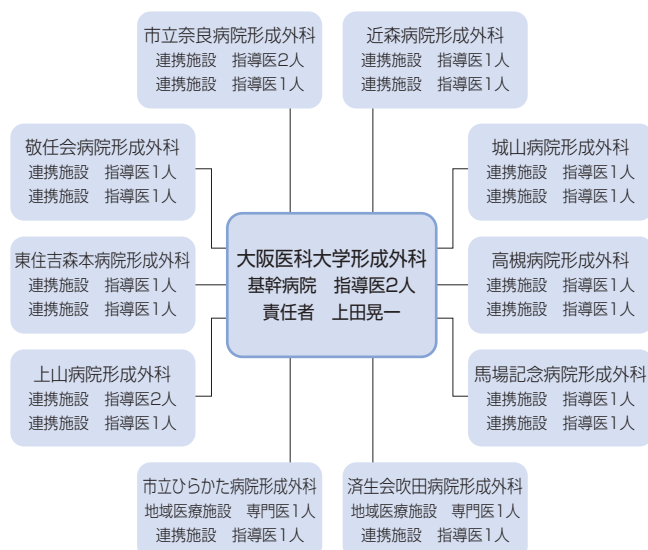


研修風景

プログラムに参加する医療機関等

大阪医科大学形成外科(大阪)、近森病院形成外科(高知)
市立奈良病院(奈良)、市立ひらかた病院(大阪)
済生会吹田病院(大阪)、馬場記念病院形成外科(大阪)
東住吉森本病院形成外科(大阪)、城山病院形成外科(大阪)
星ヶ丘厚生年金病院形成外科(大阪)、彩樹守口敬任会病院(大阪)
加納総合病院(大阪)、高槻病院(大阪)

新たな専門医制度による研修プログラムに移行後は、大阪医科大学形成外科が専門研修期間施設となり、専門研修連携施設として8施設、地域医療施設として2施設体制で始動予定であり、各施設で研修を行う。



取得できる認定医・専門医

日本形成外科学会専門医、日本頭蓋顎顔面外科学会専門医
日本レーザー学会専門医、創傷外科学会専門医
褥瘡学会専門医、日本皮膚悪性腫瘍学会専門医
日本熱傷学会専門医、日本形成外科皮膚腫瘍外科指導専門医

参加学会等

日本形成外科学会／日本頭蓋顎顔面外科学会
日本マイクロサージャリー学会／日本口蓋裂学会
日本シミュレーション外科学会／日本熱傷学会
国際マイクロサージャリー学会／国際頭蓋顎顔面外科学会
創傷外科学会／日韓形成外科学会／日本手外科学会

大学院における研究活動

他大学との共同研究

- 東京医科歯科大学歯学部分子発生学教室
頭蓋縫合早期癒合症の発生メカニズムおよび治療

本学での共同研究

- 薬理学教室
脂肪幹細胞を用いた組織再生
- 生理学教室
ノックアウトマウスを用いた発毛の研究および腫瘍免疫の研究

教室独自の研究

- ケロイド・肥厚性瘢痕のエネルギー代謝
- 静脈皮弁のdelayに関する研究
- 顔面骨骨折の固定における力学的解析
- 三次元モデルを用いた頭蓋顔面骨切り術のシミュレーション手術
- 三次元解析ソフトを用いた各種計測
- リンパ浮腫の解析
- 眼瞼下垂におけるMuller筋の変性に対する研究
- 一眼レフ3Dカメラの臨床応用

先輩レジデントのコメント

片山 美里 平成28年度レジデント

医療を通じて自分の技術や創意工夫を尽くせる

形成外科で扱う症例は多岐にわたり、形成外科へ抱く興味は人それぞれだと思います。

私は生まれつきの病気で生後すぐに手術を受けた経緯もあり、先天的な異常というものに幼少期から漠然と興味がありました。実際にそれが形成外科で扱う分野であると知ったのは大学時代で、学生実習や研修医を通して自然と形成外科に魅了されていました。元々アートやものづくりが好きな私にとって、医療を通じて自分の技術や創意工夫を尽くせる形成外科を選ばない理由がありませんでした。

しかし、入局を決める前は体力面や生活面、将来への不安でいっぱいでした。思い切って入局を決めてからは、技術ある個性溢れる先生方に日々学びを得ながら充実した毎日を過ごしています。

大阪医大では扱う症例の幅が広く、偏りなく多くの症例を経験できるので、形成外科医としての経験を培うのにとても良い環境だと思います。学会発表に関しては、国内のみならず海外での発表の機会を与えられたり、積極的な姿勢があれば後押しして下さいます。

自分もこんな手術が出来るようになりたい、少しでもそんな気持ちがあれば躊躇なく突き進んでみて欲しいです。一緒に奮闘してみませんか。

布施 明日香 平成28年度レジデント

乳房再建の素晴らしさを、患者さんの声で実感

私は、研修医の時に形成外科をまわり、乳癌によりなくなった乳房を再建することの素晴らしさを、患者さんの声を通して実感しました。また、女性特有の疾患を同じ女性の立場で診ることができる点は、私にとっても、患者さんにとっても大きなメリットであると考えます。大阪医大は乳腺外科と密な連携のもと乳房再建にも力を入れており、数多くの症例があり、形成外科に入局する決め手の一つとなりました。

形成外科に入局し大学で過ごしたはじめての一年間は、私にとってこれまでにない程本当に充実した日々でした。大阪医大では、唇顎口蓋裂や頭蓋骨縫合早期癒合症などの先天異常や、乳房再建、頭頸部再建、顔面骨骨折、皮膚悪性腫瘍など幅広い症例を数多く経験することができます。

日々の外来や手術では、形成外科医として必要な様々な知識や手技を学び、忙しい毎日のなかで先輩方のご指導により日々成長を実感しています。

カンファレンスでの術前検討や術後報告では、手術方法の選択や工夫を直接に学ぶことができます。さらにフィードバックにより新たに生じた疑問点を掘り下げることで、より学びの幅を広げることができます。

また国内留学や海外留学の経験のある先輩方も多く、学会発表や論文投稿も盛んであり、自分自身の可能性を広げるのにとても良い環境であると考えます。

形成外科に少しでも興味のある方は是非一度見学に来ていただき、医局の雰囲気を知っていただければと思います。

李 有姫 平成28年度レジデント

上級医から多くの知識や技術を学ぶ事ができる

元々形成外科に興味があったのですが、再建など大変な手術も多いイメージがあり、女医として将来の事も考えると不安でした。そのため初期研修では色々なマイナー科を選択しましたが、やはり手術がきれいで創造的で一番ワクワクする形成外科に決めました。

レジデント1年目は4ヶ月ごとに3つのグループをローテーションする形式で、偏りなく先天異常や乳房再建、頭頸部再建、顔面骨骨折、局所皮弁など多種多様な症例を学ぶ事ができました。グループで専門分野が分かれているため勉強がしやすく、上級医とのコミュニケーションがとりやすかった点がとても良かったです。さらに、術前・術後カンファレンスや抄読会、プログレスレポートなど上級医からのフィードバックを頂く機会が多く、毎症例で多くの知識や技術を学ぶ事ができ、充実した経験ができました。

医局には女医も多く、結婚や育児と両立している先輩方もたくさんおられます。そのためサポート体制ができていて、症例が多岐にわたる分働き方の選択肢も多いこと、から長く形成外科医を続けられる印象を受けました。日々充実しており、勇気をもって形成外科を選択してよかったです。